

夢

おわり

の

あ

い

ま

ま

の

あ

い

ま

ま

R18
For Adult Only



その
美しい男は
不思議な夢の話
を
私に語った。

それは
刀が人の身体を得
て歴史を守るために存在し

最後まで生き抜いた
悲しくも美しい
話だった

でもなんで
そんな話を
私に……？

カフェで突然
声かけた相手に
そういう話
するかな？

普通。

なんで……？



そしてその男は
こう言った





小狐丸…

だよ

小狐丸と
鳴狐



それは彼の話で語られた

恋仲の刀の名だった

つまりその男
恋人ごっこを
してくれと
…？

ええ

ほう
そうはまた
珍妙な

本当に
変な男
でしたよ

見てるだけで
ひきまれそうになる

美しい目をした男

しかし次に会う
約束をしたって
事は

まんざらでも
なかったという事
では？

まさか
ただの
きまぐれ
ですよ

おまけ
おまけ
おまけ
おまけ

どういふのは

ただの
浪屈のきた

こんにちは

待った？

いや

今しがたりだ
来たばかりだ

なるほど
私服もなかなか
美少年

女にモテない
わけでもないだろうに

そこ…
いい？

ああ
どうぞ



って……

なんだ？
これほ？

ちやん

ちやん

？

鳴くん……？

何故……
ここに座る？

……
だめ？

いや
駄目というか……

や……やはり
この少年天然か？

それとも
大人をからかって
いるのか……？

い……

ならば

……



威圧

これで
どうだ

こうも
無防備だと
私も自制が効かなく
なりそうでな

た
と
え
君
が
男
で
も
...

たべて

い...

みる?

え...?

へ?



なんだと!?

なんて
ね







まあ不思議と
嫌な気はしないが

あま川
見よな

まったく
君って子は

鳴狐だよ

うまい
うまい。

あーそうでした



まったく
鳴狐は

困ったやつ

この茶番も



不思議と
悪い気はしない……

今のは 何だ？

ありがとう

何がだ？

手…

恋人ごっこ
だからな

それより
君は…
いや鳴狐は

こんな散歩で
いいのかな？

カラオケでも
いいんだよ？


好きなの
…？

ああまあ
好きだが
中高生の
てっぱんかと


オレはここで
いいよ



鳴狐は



またここを
歩きたかったから



小狐丸と
いっしょにね...

小狐丸と

一緒に…

か

なんて顔

するんだ

君は本当に

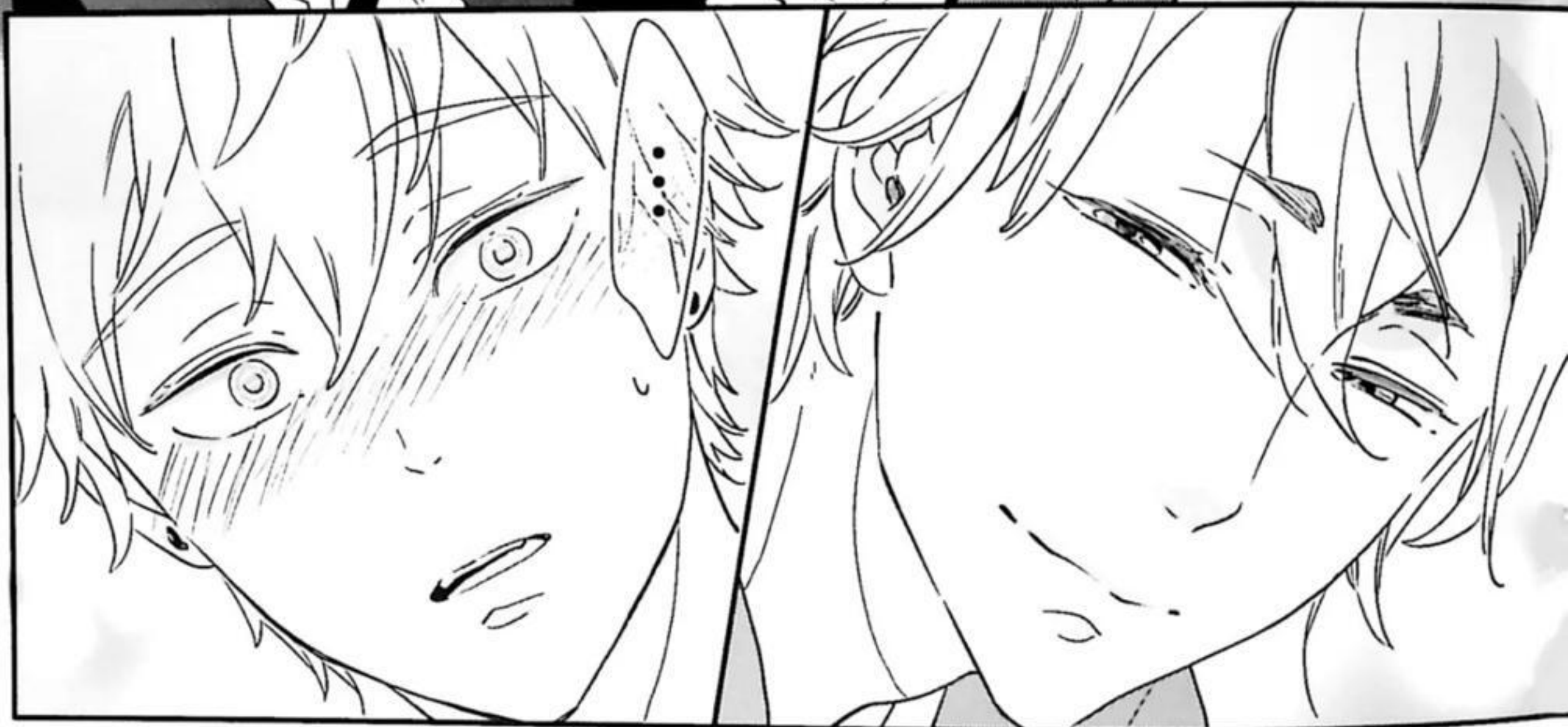
小狐丸を
愛しているのか…？

少し
やけた

そんな私を。

小狐丸がどこかで
笑っているような
気がした。

おわりの日に見た夢のつづき



鳴狐!!

ちよっ
待て!!

待てと
言つて…

それは
私の…っ!!

鳴…

鳴狐…

鳴狐…



小狐丸

小狐丸…

小狐丸？

…

あ…

どうしたの…？

あついや
何でも…

また



ちよっと
ひとつ…



変な事聞いても
いいかな

何？



少し…
疲れているのかも
しれないな…

帰る？

あっ
いや…

君と私は
本当に
初対面か？

あ…
なんと
言うか

どこかで
会って
るよう
な
気が
して…

私
が
忘
れ
て
い
る
だ
け

でっ

!!



俺達が
やってた事…

じゃあ
試して…

みる？





…
いいよ

いいのか？

本当に

…
あなたは？



私は…



すまない

もう
引き返せ
そうにない



苦しくないか?

こんな事を

私達が
やっでいた
と言っが

だいつ

じょう

いくら私でも
忘れるわけがない

こんな事

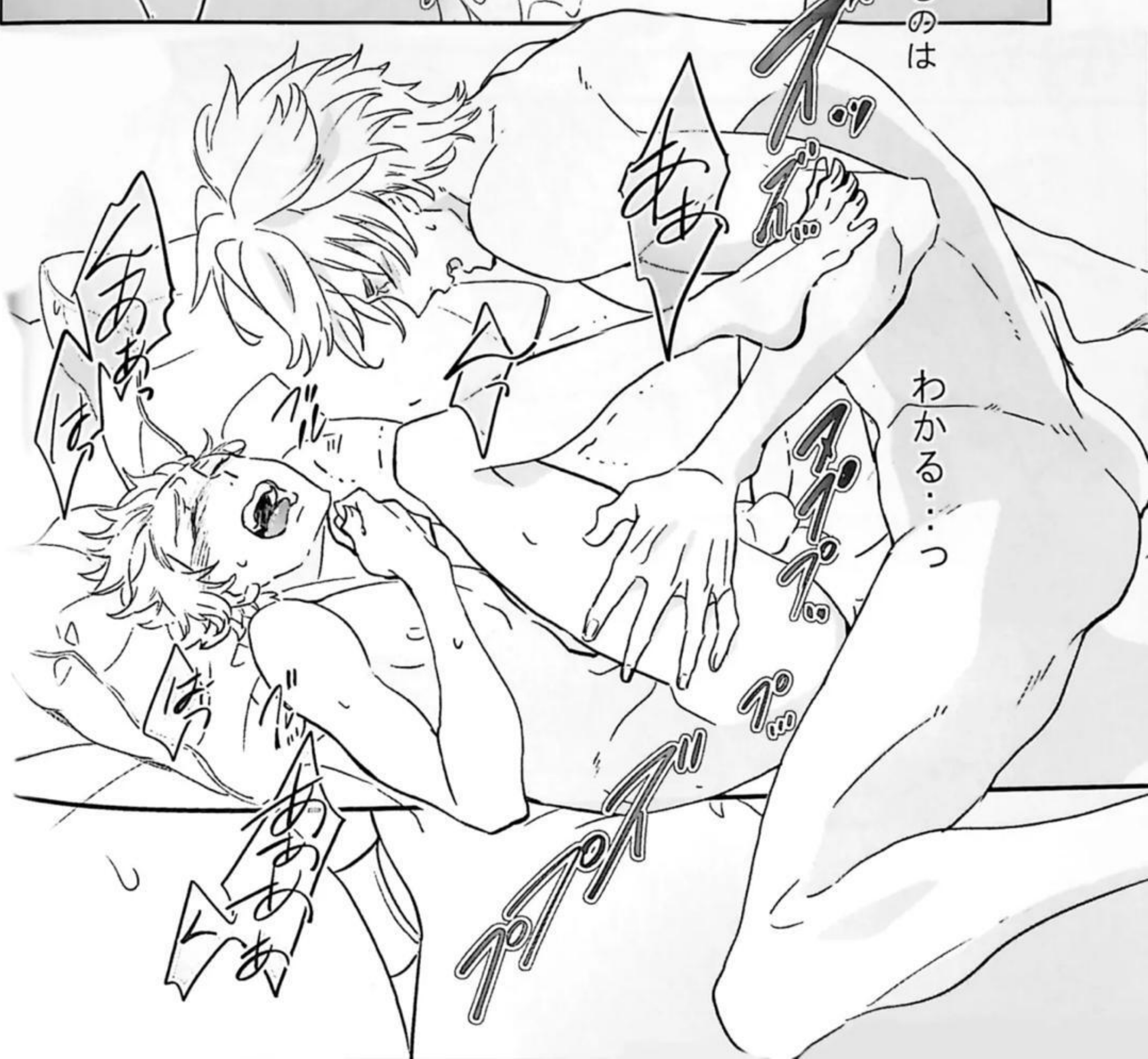
でも

そろそろ
いいか……?

体が
求めているのは

入れるぞ

わかる……っ





大丈夫か?

うん...

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ...



うれしい...

はぁ



うん……



では
動くぞ？

鳴狐

あ
と
ひ
と
つ
わ
か
る
の
は
…

大丈夫

ゆっくり



は
ん
ん

あ
あ
あ

ん
ん
ん

あ
あ
あ

あ
あ
あ



ずっと前から
そうだったような

こんなにも
愛おしい



小狐丸

小狐丸



え……？

なぜ……

泣いてるの……？



その日の夜は

不思議な夢を見た



鳴狐


鳴狐



ここにいたか

やれやれ
やつと見つけたわ





そうして私は
結局何かを
思い出す…
という事も無く

ただ
そんな夢を見て
それだけで終わった。

そして君もまた
次第にあの刀達の話
する事も無くなり…

だけど
それでも君は
今も私の横で

ふわりと
笑っていて

私はそんな
君を見てるだけで

今日も
満たされて
いるのだった

こんな日が
永遠に続けばいいのにと

柄にも無く
願ってしまうのだった

お
わ
り
の
日
に
見
た
夢
の
つ
づ
き

こんにちは、ユナカズです。
この本は201612に発行しました
「終りの日に見た夢の果て」から続いている話です。
その後のふたり、少しだけですが描けて、楽しかったです。

この本は一冊でも一応わかるようにしたつもりではありますが、
一緒に読んでいただいたほうがよりわかりやすい…
かもしれません。
ご興味ございましたらどうぞー！

また、一応転生物という事になりますが、何故過去に転生してるかという…
うちの本丸は時空の狭間にあるので！！あの世界で朽ちてしまった命は！！
過去未来関係なくすっとんでいくのです！！という、つまり私の都合です^^。
ではではここまで読んでくださって有難うございました。
次は当選していれば夏コミ参加予定です。
詳しくはtwitter、Pixivにて随時お知らせ中。

[TOURABUFanBook011/2017.0504///SugarTrap/ユナカズ](https://www.pixiv.net/artworks/10111111)
[Pixiv3863995/Twitter:yunakazu1/mail:yuakazu55@gmail.com](https://www.pixiv.net/artworks/3863995)
Print:西村騰写堂様